

International Development Center of Japan
IDCJ 国際開発センター

JICA/IDCJ共催セミナー

「学校と社会をつなぐ人づくり」
—地域経済の活性化に向けた技術教育・職業訓練—

近年、世界では社会的弱者の就業機会を高めることの重要性がクローズアップされています。途上国では産業が未成熟なために職業訓練と労働市場とのリンケージが弱く、若年層の失業が大きな社会問題となっています。実際、「アラブの春」と呼ばれる民主化運動も若年層の失業が背景にあったと言われており、以降、教育分野の支援では、基礎教育から職業に繋がるための支援、ポストプライマリーエデュケーションとしての技術協力や職業訓練が、国際的にも再注目されるようになってきました。

特に、技術の習得支援だけでなく、技術教育・職業訓練の効果を高めていくための援助方法、就業機会を得るための資格制度、起業支援等の人材活用システムの構築や官民関係者間のネットワーキング等の重要性も唱えられるようになってきています。

こうした現状認識のもとに、(一財)国際開発センター(IDCJ)は、国際交流事業の一環として、(独)国際協力機構(JICA)との共催で、志望しても就業機会に恵まれない若年層をはじめとする社会的弱者に向けてどのような支援ができるかを考える場として、2011年10月5日、JICA地球ひろばにて標記セミナーを開催しました。セミナー内容は表のとおりです。

本セミナーは産業界、省庁関係者、JICA職員、開発コンサルタント、大学、NGO等幅広い分野から総計82名もの参加を得ました。

本セミナーでは、始めに総論として、名古屋大学の山田准教授より、途上国における技術形成と国際協力の潮流をご講演頂いた後、JICA人間開発部の森田氏よりJICA

の技術協力・職業訓練に対する取り組みのご紹介を頂きました。続いて、技術教育・職業訓練からの知見として、IDCJの建部主任研究員及びシステム科学コンサルタツの山本氏よりODA案件としての職業訓練支援事例の報告がなされました。また、国際技術ネットワークの鎌田氏からは教育を提供する側と雇用する側のニーズのマッチングに関する報告がなされ、トヨタ自動車の一井氏からは、企業としての人材育成に関する事例の報告を頂きました。

その後の意見交換では、それぞれの立場から公的機関、民間企業に対する期待や、訓練する側、雇用する側、双方の間での技術、ニーズのマッチング方法等について議論がなされました。特に、現場を知る発表者からの徒弟制度を利用した職業訓練支援案や政府の効率的な民間支援の在り方の提言、充実した職業訓練を行うための訓練校卒業生のフォローの実施や職業訓練から就業までのモデル作りの重要性、必要性の訴えは大変興味深いものでした。

セミナーに対するアンケートでは、回答者の多くが「大変参考になった」あるいは「参考になった」と回答して下さいました。ODA、研究、民間セクターの異なった視点から技術教育、職業訓練に対する事例・課題の紹介、議論をしたことで、参加者の方々には好評を頂けたようです。

当センターでは、引き続き、国際交流事業、社会貢献活動の一環として時代を先取りしたセミナーや勉強会を積極的に開催してまいります。今後ともご支援を賜りますよう、宜しくお願い致します。

(IDCJ 石川晃士)



意見交換の様子

<セミナー内容>

- はじめに
独立行政法人国際協力機構 人間開発部部长
萱島 信子

- 途上国における技術形成と国際協力の潮流
名古屋大学大学院 国際開発研究科 准教授
山田 肖子

- JICA「技術教育・職業訓練」支援の現状と今後の方針
独立行政法人国際協力機構 人間開発部
森田 千春

- 技術教育・職業訓練からの知見
1) JICA「スーダン職業訓練システム開発調査」
株式会社国際開発センター 主任研究員
建部 直也
2) JICA「南部スーダン基礎的スキル・職業訓練
強化プロジェクト」
システム科学コンサルタツ株式会社
人材開発本部担当 執行役員 山本 幸生
3) 「企業の活力やCSRを通じた職業訓練」
国際技術ネットワーク株式会社 代表取締役
鎌田 洋祐
4) 「南アフリカでのトヨタの人材育成」
トヨタ自動車株式会社 アフリカ部部长
一井 誠二

- 意見交換

- おわりに
一般財団法人国際開発センター 理事長
竹内 正興